

主体性と協調性を高め、多様性を認め合う生徒会活動の実践

日立市立駒王中学校

1 はじめに

駒王中学校の近隣には、明秀学園日立高等学校、日立第一高等学校および附属中学校が位置しており、中高連携のボランティア活動等に取り組むには最適な環境である。昨年度よりも、他校との連携をさらに深めながら、今年度の生徒会スローガンである「克己心～突き進め その先へ～」のもと、生徒会役員を中心とした生徒会活動が行われてきた。

2 資料

(1) 他校と連携した合同ボランティア活動

ア かみねゲンキ PROJECT

明秀学園日立高等学校、日立第一高等学校および附属中学校と連携し、月に一度のあいさつ運動と、年に4回の清掃（ごみ拾い）活動を行った。本校では、常置委員会ごとに担当日を決め、全校生徒が一度は活動に参加できるように配慮した。

イ さわやかマナーアップあいさつ運動

11月の「いばらき教育月間」に合わせ、中小路小学校・宮田小学校・駒王中学校に分かれ、小学生と合同であいさつ運動を行った。



清掃活動を行う生徒



本校に集合する生徒



日立一高前で活動する生徒



中小路小付近で活動する生徒

(2) 校内の課題を自らの力で検討・解決する生徒総会

全校生徒に向けたアンケート（学校生活の振り返り・学校への質問・要望等）を生徒会役員および常置委員長で集約し、その結果を踏まえ生徒の合意形成を図った。



中央委員会(生徒会役員・常置委員長)



生徒指導主事との対談



アンケートの結果提示



学級旗を用いた意思表示

(3) 生徒が主体となった新たなリーダーの決定

12月に生徒会役員選挙、1月に常置委員会委員長選出を行った。生徒は、生徒会役員立候補者によるあいさつ運動、政見放送、給食時間の演説を見て、誰に一票を投じるか検討した。常置委員長選出では、生徒会役員と前委員長が新委員長立候補者の演説を聞いた上で、新たなリーダーに相応しい人物は誰なのか、生徒が中心となり検討した。



朝のあいさつ運動



立会演説会



投票の様子



常置委員会委員長演説

3 成果と課題

合同ボランティア活動においては、他校の生徒との関わりの中で、生徒の主体性や協調性を育成できるといった。また、活動の結果、自らが暮らす地域を愛し、活気をもたらしという意味でも、このような活動に参加することは有効な手立てであると考えている。生徒総会においては、校則の検討や話し合いを重ねる中で視野を広げていき、社会における「多様性」とは何かと考えるきっかけになった。新たなリーダーの選出においては、自らが生活する学校を自らの手で築き上げるという自覚が、主体性の育成につながっていると思った。